



平成26年4月 新図書館が完成 教育環境がさらに充実

学校法人高知学園  
高知リハビリテーション学院

# 学 院 報

学院報第20号

学校法人 高知学園  
高知リハビリテーション学院

平成26年 9月10日発行

発行

学院報編集委員会

〒781-1102  
高知県土佐市高岡町乙1139-3  
Tel 088-850-2311  
Fax 088-850-2323  
http://www.kochi-reha.ac.jp/  
E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション  
学院への抱負<sup>◎</sup>

学院長 大倉 三洋

保護者の皆様には、ますますご清栄のことと拝察いたします。また平素は学院の教育・運営に関しまして、ご理解、ご協力を賜りまことに有り難うございます。保護者の皆様にも少しも学院のことが知っていただこうと始めました学院報も第二十号の発刊を迎えることになりました。

高知リハビリテーション学院は昭和四十三年、全国で三番目、私学で最初の理学療法士養成施設として定員一学年二十名（三学年六十名）からスタートし、昭和五十年にはより高度なセラピストを養成する目的で、全国で最初の四年制の養成校として認可を受けております。そして平成五年に修業年限四年、定員三十名の作業療法学科を増設し、同時に理学療法学科の定員を三十名としました。平成九年には言語聴覚士の法制化に先駆け修業年限四年、定員三十名の言語療法学科を開設し、リハビリテーション医療専門職の三本柱を養成する総合養成機関に発展して参りました。平成十年、開校三十年を機に土佐市からの熱心な誘致話もあり高知学園短期大学のある旭キャンパスから現在の土佐市高岡町に校舎を新築移転しました。また平成十三年には各学科十名の定員増を行い、学生総数四八〇名に、さらに平成十七年理学療法学科三十

名の定員増を行い学則定員六〇〇名の大所帯となりました。学生数の増加に伴い図書館をはじめ合同教室、パソコン実習室等が手狭になってきたこともあり、平成二十三年度より創立五十周年にむけ取り組んでいる教育環境の拡充・整備事業の一つであります図書館、パソコン実習室、合同教室、セミナー室を備える別館が四月に竣工いたしました。

新しい図書館は旧図書館の約三倍の広さがあり、専門図書二万冊、約一〇〇席の閲覧席に加え文献検索用のパソコンを十台設置、オープン以来一日平均三〇〇名の学生が利用しています。また合同教室は一二〇名収容の大教室であり、音響・映像設備も整っており多目的利用が可能となっております。近年益々リハビリテーションの重要性が認識されてきた今日、これらの新たな教育環境の中でこれまで以上に優秀で心豊かなセラピストの育成に努めて参りたいと考えております。また学生が思いきって運動のできる運動場の確保も創立五十周年に向けての教育環境の拡充・整備事業の一つとして掲げており、一日も早く実現できるように努力をしていきたいと思っております。今後ともご支援、ご協力をよろしく願っています。

# 人間総合科学大学卒業報告

人間総合科学大学指導連絡会 委員長 中野 良哉

高知リハビリテーション学院では、卒業後に医療の場において高い教養と幅広い知識が必ずや役立つとの考えに基づき、昭和62年度から併修制度を取り入れました。併修制度とは、本学院で学ぶと同時に大学で学び学士の資格を取得する制度です。平成12年度からは人間総合科学大学と併修提携を結びました。学生はこの併修制度を利用し、「こころ」「からだ」「文化」の3つの領域を中心に学んでいます。平成25年度高知リハビリテーション学院卒業生のうち、25名が人間総合科学大学人間科学部人間科学科を平成25年3月9日に卒業しました。併修制度を通して得た高度な知識や豊かな人間性、4年間にわたり学院と併修大学の学業を両立させ、最後まで学びの姿勢を崩さなかった粘り強さを医療・福祉の実践場面で十分に発揮し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士として活躍されるよう期待しています。

# 国家試験結果について

国家試験対策実務委員長 大塚 貴英

去る2月15日に言語聴覚士国家試験、2月23日に理学療法士・作業療法士国家試験が行われ、本学院からは、言語療法学科25名、理学療法学科76名、作業療法学科28名が受験しました。どの学科も、教職員の指導及ばず、若干名の不合格者が出てしまったことは残念です。今年の国家試験も難易度は高く、全国の平均合格率が、言語聴覚士74.1%、理学療法士83.7%、作業療法士86.6%となっています。

これまで、本学院は「質の高い療法士の輩出」を目標に学生と関わってきましたが、今後もより一層、質の高い教育を行っていきたいと考えております。そして、来年こそは「合格率100%」を目標に、各学科の教職員が有効な教授法についての情報交換を密に行い、すでに、国家試験対策へと取り組んでおります。

## 平成25年度卒業生 特別表彰者

### ○職業教育・キャリア教育財団表彰

理学療法学科 多賀 由枝  
 作業療法学科 野口 絵梨子  
 言語療法学科 畑山 浩二

### ○全国リハビリテーション学校協会 優秀賞

理学療法学科 片田 泰椰  
 作業療法学科 北村 光章  
 言語療法学科 藤田 隆良

### ○日本理学療法士協会優秀賞

濱田 恵美

### ○日本言語聴覚士協会会長表彰

宮本 裕也

### ○学院長表彰

理学療法学科 甲藤 史拡  
 杉本 奈穂  
 作業療法学科 大西 祥平  
 言語療法学科 伊藤 彰

## 知ろうせ

### 《それから第18回の巻》

### インテリミエンス

本年度も前期の終わりで、定期試験が行われました。そして教員室で、試験採点后にいつも話題になるのが学生の一般的知識です。今日は、『捨五入』という語の意味を知らないのではないかと話になりました。ここでいう一般的知識とは、常識ともいえるもので、小学校の低学年で学んだ事柄の多くが絡みます。「分数のできない大学生」の書が話題になったのはすでに十五年も前で、いまやその域ではありません。小学校の先生によっては「カタカナ」の時間が数時間、九九も覚えきらないまま進級、ローマ字も数時間で英語は「コミュニケーション」が中心となると、国語も算数も英語も基礎知識がないのは当たり前なのです。ましてや普段、本を読まず、手紙も書かず、メールやラインでは簡単に使った慣れた単語を二つ三つ並べるだけで事は足りすから、ボキャブラリーは少ないままに一般的知識を含めた一般常識も身につけていないのです。「そんなことはない」と思われるかもしれませんが、しかし現実には想像以上で、もちろんレベルの差が大きくそんな学生は一部ではあっても、そのような学生も少なからずいることは確かです。もう一つなると、試験では答えが分からないのではなく、質問(問題)の意味が分からず解答内容はハチャメチャです。国家試験もありまして、就職すれば、計算もしなければならぬ場面もありますし報告書も書かないといけません。何よりも、患者さんや対象者の方からは、知性を洞察されます。コンピュータ、スマートフォン、ゲーム、などデジタル・メディアの過剰な利用は、読解力と計算力を低下させるということも証明されていて、それらの依存症から脱却しなければなりません。そして目指す職業は、おバカキャラが人気を集める業界ではないことを知っておいてもらいたいです。信頼される療法士(医療人)となるために、いまからでも遅くないので、毎日せめて十分でも、本や新聞を読むとか暗算を試みるなど、平素の学びを大事にしてほしいと思います。

(教務部 山本)

# ))) 教 員 紹 介 (((



言語療法学科  
吉村知佐子

一年次生(十八期生)の補導主任をしています。とても元気なクラス、初めてのレクレーション大会では惨敗しましたが、練習する姿は優勝する勢いでした。また、優しさ



作業療法学科  
学科長  
平松真奈美

作業療法学科の学科長をしています。教員として十三年目を迎え、今年度は一年次生と四年次生の副補導主任としても、慌ただしい日々を送っ



理学療法学科  
学科長  
濱田和範

この度、四月より本学院で勤務することになりました。それまでは三十一年間臨床現場、四年間を教育現場で働いてきました。今、再び教育現場を経験して思うことは、「人に教えること」「伝えること」の難しさです。学生に対して

いっばいで、テスト期間中でも近所で「餅ばあし」(餅まき・餅なげ)があると聞けば参加し、苦勞してとった「お餅」を学校まで持ってきてくれました。八月にはよさこい祭り、授業をした後の練習も頑張っています。学生には、できることを全力で行う、他者を思い行動する、社会性を

ています。担当科目は、一年次のリハビリテーション概論・作業療法概論、三年次の老年期障害作業治療学・地域リハビリテーション学、地域作業療法学などです。臨床経験として、広島と高知で急性期から維持期までの病院や介護老人保健施設で働いていま

現場で実際に患者様を目の前に指導することと教科書や言葉のみで伝えることのギャップの大きさ、そして自分達が学生の頃と今の学生との考え方の違いに戸惑っています。自分達の学生時代とは違って、今の学生は文献資料や設備など教育環境はかなり充実しています。一方で少し足りないことがあると直ぐ休んだり逃げ出したりプレッシャーには非常に弱いように思います

磨くことなどを目標に指導しております。そして、個々の個性を活かし、団結し、学院で学んでよかったと言ってもうれしいと思います。これからも変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

した。教員歴も長くなり、臨床実習指導者として後輩指導にあたる卒業生に会う機会も増えていますが、その度に立派になったものと感心しています。素敵な卒業生の協力をいただきながら、学生が成長できるように頑張りますので、よろしく願います。

が、これも時代の流れなのでしょう。まずは、我々医療職は「生命を扱う究極の対人サービス業」であり大きな責任があるという覚悟を持っていたきたい。これからの自分の使命は学生の皆さんが社会に出た時に少しでも困難を乗り越えられるよう今までに出会った多くの患者様や上司・先輩方から学んだことを伝えることだと思っています。

## 保護者面談会開催のお知らせ

平成26年9月28日(日)10時30分から、高知リハビリテーション学院におきまして、学内授業や病院実習、就職活動などの教育報告、および教員との面談の場を設けますので、お知らせ致します。

なお保護者の皆様には、別途、ご案内状を差し上げていますので、詳細はそちらをご覧ください。

<担当・連絡先>

高知リハビリテーション学院  
教務・学生課：岡林・川越

〒781-1102 高知県土佐市高岡町乙1139-3  
TEL 088-850-2311

## レクリエーション大会を終えて

レク大会委員長 作業療法学科 2年  
西森 哲太



初めての委員長ということで、競技内容は昨年と同じなのに分からない事が多く大変でしたが、レク委員の3年生が手伝ってくれてスムーズに進めることが出来ました。各競技

では、各学科が一致団結してチームとして闘っていました。各競技が終わって体も温まり、最終の学科対抗の綱引きでは大変盛り上がっていたと感じています。4年生も実習が近く大変な時期なのに参加してくれました。1年生は初めてとは思えないくらい1つ1つの競技を全力で行っていました。みんなとの交流を深め楽しい学院生活になればと思います。今回、本当に周りの人達に助けをもらい、おかげでレク大会が成功したと思います。

# 学生生活について

言語療法学科二年

貞光 梨沙

入学してから二年、今とても充実した学生生活を送っています。一年生の頃は慣れない勉強に戸惑いましたが、放課後友達と一緒に勉強し、また先輩方や先生方が教えてくれました。学校行事も豊富で、レクリエーション大会やよさこい、大綱祭りはとても良い思い出となっています。学院祭では放課後にみんなが残って買い出しに行くなどの準備も楽しんで、当日は出店やクラス自慢、アームレスリ

作業療法学科二年

武田 誠実

学院に入学して一年四ヶ月、最初は新しい環境、新しいクラスメイトに上手く馴染めるか、上手く一人暮らしが出来るかという不安でいっぱいでしたが、良い友好関係を築き、充実した学院生活を送っていくうちにその不安はなくなり、気付けば毎日が楽しい学院生活になっていました。勉強面では自分たちが今までに勉強したこともなかった専門的な分野についていくのに必死でかなり苦労しまし

理学療法学科二年

西原 さゆり

入学したばかりのときは、なかなかクラスに馴染むことができませんでした。クラス対抗のレクリエーションや日々の授業、学院祭を通して友人との人間関係が自然に築かれていました。一年次で教わる授業は最初、今までに触れた範囲ではないので理解するまでに時間を要しました。学年が上がり二年次になると実際に体を使って動きます。一年次で習ったことを応用していくことで、先生も丁

ングなどがあり大変盛り上がりました。二年生になるとクラスもだんだんとまとまって、レクリエーション大会でも一年生の時よりも良い結果を残せました。勉強の量も多いですが、さまざまな検査演習も始まり、専門性が高くなりより充実した学生生活を過ごしています。言語療法学科に入学して良かったなと思います。三年生になれば今以上に専門教科が増え、難しくなると思いますが、言語聴覚士を目指して頑張っていきたいと思えます。

た。高校の時は成績が悪い方ではなかったから難なくついていけるだろうと思っていた事が恥ずかしくもあり懐かしいです。月日を重ねるごとに勉強は難しくなり、聞いたことのない専門用語や専門的な知識に苦労していますが、先輩たちやクラスの人たちに助けられているのが頑張っています。今はバレーサークルの部長を務め、下級生や上級生との交流に努めています。これから勉強面で苦労する事が増えると思いますが、前向きに頑張っていきたいと思えます。

寧に教えてくれます。それによって自分の中で理学療法士になりたいという気持ちにより明確になっていくのがわかりました。また本校ではコンパという先輩方との交流を深めるものがあります。これは、これからの学生生活のことに、先輩にいろいろな貴重な話を聞くことができます。このような経験を通して今の自分があります。日々自分の気持ちに変化し、成長していくことを感じられるのはこの高知リハだけだと思います。自分自身が考える理学療法士を目指したいと思えます。

## よきこい祭りを終えて

理学療法学科一年

甲藤 由美香

台風の影響で前夜祭が中止となった第六十一回よさこい祭り。高知リハ四十四回出場という新たな試みもありました。雨で練習もままならず迎えた本祭当日、嘘のように雨が上がり路面が光っていました。ぎこちなく始まったよさこいでしたが、大観衆の前で踊っていると、太鼓の演奏でめくれた手の皮の痛みや暑さも忘れ、自然と笑顔がこぼれていました。会場を回るごとに歌・煽り・太鼓・提灯・

## 大綱祭りを終えて

言語療法学科一年

松岡 杏樹

大綱祭りは私達にとって、よさこいを踊る最後の舞台でした。すべての想いを詰め込み乱舞しました。公民館で頂いた料理、そこでの熱い地域交流にとても興奮しました。父の出身が土佐市であることもあり、幼少の頃、家族みんな



旗・鳴子、すべての声や音、動きが一つになるのを感じました。高知学園創立百十五年のお祝いに相応しい演舞だったと思います。陰で先生方や地味の方など沢山の支えがあり、成し遂げられたよさこい祭りです。感謝の気持ちを忘れずに勉強に励み、四年後に資格を取ることが何よりの恩返しだと思います。よさこい祭りで得た絆を大切に、学院生活を送りたいです。

で綱を引き合った思い出が蘇りました。この場所で学院のみんなと共に踊ることが出来たことは、私にとって奇跡的で感慨深いものでした。三十七回の歴史を重ねられているのは、地元の方々の情熱と野中兼山に対する感謝なのだと感じました。野中兼山は工事現場の士気を高めるため、綱引きを始めたそうです。私も志気を高め勉強に励んでいきたいです。よさこいを通じて人々との輪が広がりました。大綱祭りは最高です。

# クラブ紹介

## 【軽音楽部】

部長 理学療法学科三年 崎山 誠也

軽音楽部は部員約三十名程です。それぞれが初心者、経験者関係なく学院内外でバンドを組んでおり、定期演奏会や学院祭などで、皆で一丸となり学院を音楽で盛り上げています。練習はバンド内で話し合いで決め、学院内にある練習場で楽しくワイワイと日々技術を磨いています。学院にはアンプやドラム・マイクなどがあり、充実した設備で練習を行います。現在、初心者も多くいますが、先輩や仲間と共に目標に向かって練習をすることで、難しい楽器も弾けるようになっていきます。日々活動を頑張りますので、ライブを行うときは、僕たちの音楽を聴きにきていただくと嬉しいです。



♪第1回軽音楽部  
LIVE全6曲演奏  
—旧図書室にて—



## 後援会予算の概要

### 【収入】

(単位：千円)

内 訳 (科 目)	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額	備 考
(会 費)	16,425	16,200	会費：30,000円/年
(そ の 他)	619	341	前期繰越金他
50周年記念事業	—	1,000	平成30年度開学50周年記念事業積立
合 計	17,044	17,541	

### 【支出】

内 訳 (科 目)	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額	備 考
学生活動の支援 (厚生費)	8,761	9,380	よさこい祭り・学院祭・クラブ活動経費 実習前検診経費 他
環境の整備・ 実習や就職活動の支援等 (施設設備費・活動費等)	6,943	6,250	構内清掃や教職員による巡回指導、 就職先の新規開拓活動経費 他
50周年記念事業	1,000	700 前年度からの積立	平成30年度開学50周年記念事業積立
次期繰越金	340	1,000 211	
合 計	17,044	17,541	

## 全国で活躍する卒業生シリーズ⑳

## 〓高知リハの絆〓が教えてくれたこと

帝京科学大学

理学療法学科二十七期生

豊田 輝



〓丹心昭萬古〓 「これを豊田君に贈呈する」これは、恩師奥村悦之先生から卒業時に直筆の色紙で頂いた言葉です。当時は、意味も読み方も分からないまま頂きましたが、「丹心、萬古を照らす(たんしん、ばんこをてらす)」と読み、意味は「真心を持つた行いは、いつまでも光輝く」ということだそうです。あの日から十七年が経過しましたが、今ではこの言葉が私の心の中で煌々と輝き、座右の銘となっております。なぜ、この言葉が座右の銘となったのかについて述べさせていただきます。私の理学療法士人生は、JRR東京総合病院でスタートしました。これ以降、今日に至るまで大変充実した毎日を送らせて頂いております。また現在は、僭越ながら帝京科学大学で理学療法士を養成する傍ら、公益社団法人東京都理学療法士協会では、理事・事務局長を務めさせて頂いております。このような充実した生活と職責を頂いておりますのも「高知リハの絆」のおかげだと感じております。学生時代に膝を突き合わせた先輩後輩のみならず、大倉三洋学院長先生らの一期生から始まり臨床実習で東京に出てきた学生までの「高知リハ」が私の周りには溢れかえっており、こ

れまでの様々な局面でいつも私を支えて頂いております。この絆は、先輩後輩の上下関係を越えた関係であり、一人の「ひと」として尊重し合い、年齢や経験に関係なくお互いに「感謝の心」を相手に伝えることができるからこそ、伝統として受け継がれているのだと思います。だからこそ私にとって「丹心」とは、「高知リハの絆」から教わった「感謝の心」だと考えております。また、高知リハの先輩である直属の上司から「知っていること」と「やれること」は違うということを教わりました。これは「知っていること」だけで慢心してしまうと自らの価値観や判断基準が先入観や既成概念に縛られてしまい、適切な意思決定ができないということでした。現在では、「行動すること」で初めて本当に「やれる」ために必要な自らの改善点を見出すことができると考え、〓まずは行動すること〓を心得としております。これからも「高知リハの絆」である「感謝の心」を持って「行動」し続けたいと思います。最後になりましたが、このような機会を与えて下さいました高知リハに関わる全ての皆様にこの場をお借りしまして感謝申し上げます。

## 保健室だより

上村 孝子

すごしやすい秋ですが、夏の疲れがでて体調を崩しやすくなります。「夏バテ」の

不調が秋まで続いて深刻化する、新型の「秋バテ」が増加しているといわれています。夏場の冷房による冷えが自律神経を乱し秋口に不調が現れることも。また、冷たいものを摂りすぎたことにより起こる「内臓冷え」も「秋バテ」増加の要因です。

『秋バテ』サイン！：食欲低下・疲れやすい・立ちくらみやめまい・頭がボーっとする・寝不足で朝スッキリ起きることが出来ない。秋バテの予防をしよう！☆寒くない程度にして冷房病に注意しよう☆エネルギー代謝を良くするビタミンBを摂ろう(豚肉・魚レバーなど) ☆ビタミン・ミネラルを摂るために野菜や果物を食べよう☆朝や夕方涼しい時間を利用して少しでも身体を動かして汗をかこう☆ぬるめのお湯にゆっくり入り全身を温め血行を良くしよう☆十分な睡眠をとろう。

## 学院祭のご案内

学院祭実行委員長 作業療法学科3年 竹村 隆文

今年も高知リハビリテーション学院の一大イベント、学院祭の季節が近づいてまいりました。本年度の学院祭は10月の12・13日に開催いたします。今年は、毎年恒例のオープニングの餅投げをはじめ、豪華景品のビンゴ大会や、沢山の屋台など地域の皆さんが楽しめるようなものもたくさん用意しております。また、クラス自慢やアームレスリング、コーラ早飲み、〇×クイズ、カラオケ、仮装大会やバンドなど学生が中心になって行うイベントや学科紹介などがあります。屋台では焼き鳥、から揚げや揚げタコ、冷凍パイやクレープ、チョコバナナなど豊富なバリエーションを取りそろえ、各クラスで企画しております。また外部からの参加では学生の屋台とは一味違ったものを楽しんでいただけたらと思います。生徒、職員はもちろんのこと、地域の皆様にも楽しんでいただけるような企画を、学院祭実行委員一同一丸となって準備しております。ぜひ皆様お誘いあわせのうえご来場されますことを心よりお待ちしております。